

生活協同組合パルシステム東京の皆さま、ご支援を賜りましてありがとうございます。

【事業名】

エイズの影響を受ける人びとおよびケアを必要とする子どもたちの支援強化事業

【背景】

現在、南アフリカ(以下、南ア)では、一国として世界最多の約710万人のHIV陽性者が存在しています。なかでも15~49歳の若い世代では5人に一人が感染、エイズで親を亡くしたエイズ遺児が約250万人いると報告されています。南アでは、統計上はエイズ治療薬(ARV)が普及したと言われてはいますが、現実には、副作用の強いARV服薬に欠かせない「食事」が貧しさゆえに手に入らない、あるいは交通費がないなかで病院に行く途中で体力不足で倒れてしまうなどの理由で、病院・薬へアクセスすることなく亡くなる人が数多くいるのです。また、毎年約4万人前後の子どもが母子感染して産まれてきます。感染したり、親をエイズで亡くした子どもは差別や偏見にさらされ、誰も世話をしてくれる人が見つからないケースも少なくありません。こうした状況に対応するために、エイズ遺児・エイズの影響を受ける子どもたちへの支援と世代を超えた感染拡大予防が必要です。

【事業の目的と活動概要】

特に、医療機関・従事者が不足し、正しい情報が届きにくくエイズへの差別や偏見が特に強い農村部において、①地域住民自身による子どものケア・サポート体制の充実、②若い世代の感染予防を目指した若者同士の学び合い・啓発活動の強化、③薬へのアクセスを可能にするために生活を支える家庭菜園づくりの普及を目的として活動を実施しました。

事業地	南アフリカ共和国リンポポ州ベンベ郡マカド地区の2村
パートナー組織	LMCC(現地の地域住民組織。村の母親たちが中心に活動している)が2村で運営する子どもケアセンター
受益者	【直接受益者】LMCC子どもケアセンターのボランティア20名、エイズの影響を受ける/特別なサポートの必要な子どもたち(子どもケアセンターに通う子どもたち)のうち11~18歳の青少年約100名 【間接受益者】子どもの保護者、地域の教員やソーシャルワーカー、村長など関係者、その他地域住民 約12,000人

◆2017年度の活動の位置づけ

＜2012~2015年度の活動、成果と見えてきた課題＞



在宅介護ボランティア育成



子ども支援



予防啓発



HIV陽性者支援



家庭菜園

- 地域の母親が担う「ケア・ボランティア」の育成を通じたHIV陽性者や親を亡くすなどした子どもたちのサポート(在宅介護ボランティア育成、子ども支援、予防啓発)
 - HIV陽性者を含む地域住民対象の研修(陽性者支援、家庭菜園)
- それぞれの活動で成果を確認。地域の理解と協力体制。
エイズ遺児など困難な家庭環境にある子どもたちを地域でケア・サポートする様子が見られるように。



しかし、様々な社会的要因と連動しているHIV/エイズの問題。悪化する社会状況の影響を最も受ける若い世代。
→やまない新規感染拡大。特に若者層で顕著にみられる。
世代を超えた悪循環。これへの対応が必要。

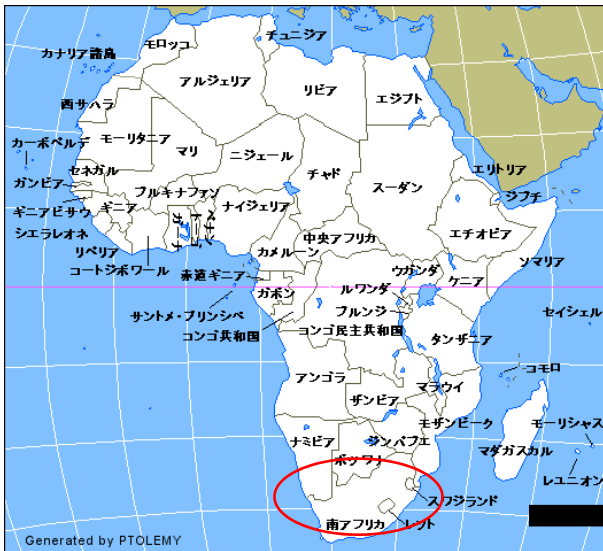
＜2016~2017年度 世代を超えた悪循環に対応するため10代の青少年との活動を中心に＞

- 「ケアを受ける子どもたち」から「自ら考え、行動し、将来を担う子どもたち(10代の青少年)」へ
- 若者がお互いを支え合い、地域や自分の将来について自分たちで考え、行動することを促す活動
HIV/エイズやリーダーシップに関する研修、子どもケアセンターの日常の活動プログラムの充実、家庭菜園研修
→それを支えるケア・ボランティアや地域関係者への研修

◆活動地地図

南アフリカ共和国 リンポポ州ベンベ郡マカド地区(農村地域)

※主要都市ヨハネスバーグから北部へ約450km



【活動報告】

◆青少年活動のサポート



2村間の経験交流とその機会を活かしたHIV/エイズ研修。写真は研修後の試験中(5月)。



2016年度に実施した青少年による村内での予防啓発活動の評判がよく、子どもケアセンターに新しく通い始める子どもが増えました。これらの新しいメンバー(約60名)に本事業で育成した村内菜園トレーナーとともに、ケアセンターの敷地を利用して家庭菜園づくりを実施(通年)。



- ・新しくケアセンターに通い始めた子どもたち対象のHIV/エイズ研修(5月)と家庭菜園研修(通年)
- ・2016年度に実施したHIV予防啓発、性教育、リーダーシップ等に関する研修のフォローアップ(通年)
- ・2村間の経験交流での学び合い(5月、3月)
- ・これら研修が日常生活やケアセンターでの活動に定着するためのケアセンター活動および家庭菜園実践状況のモニタリングと必要に応じたサポート(通年)

◆青少年活動に対するサポート体制強化



- ・組織基盤強化としてのガバナンスフォローアップ研修(3月)
- ・2016年度に実施した子どもケアセンターのプログラム運営に関するフォローアップ研修(10月)
- ・先駆的な活動をしている地域のケアセンターのボランティアとの経験交流(10月)
- ・学びの定着とケアセンターの活動充実を目指した日常的なモニタリングとフォローアップ(通年)

子どもケアセンターの理事とケアボランティアを対象に、組織運営・ガバナンス研修を実施。講師は2016年度もケアボランティアを対象に組織運営に関する研修を実施してくれた南アのNGO・Lamulaniのピーターさん(写真左)。Lamulaniは本事業のケアセンターのように小さい地元の団体でしたが、自分たちで資金調達をし、運営を安定化させているため、同様の事例から学ぶ好事例です。資金調達や会計管理、組織の持続性の重要性、そのために理事が果たす役割などについて講義・議論されました。

【成果・変化】

子どもケアセンターに通う10代の子どもたちが、研修等で学んだことを、新しくやってきた子どもや年齢の低い小さい子どもたちに教え、伝える様子が見られ始めています。「伝えること」で自信をもつなど、青少年ら自身の内面の変化ももたらされています。



(左) 子どもケアセンターに長く通い、JVCによる研修(HIV/エイズや環境、ジェンダー、人権、遊びを通じたチームワークなど)を受けた青少年たちが、新しく通い始めた青少年たちに学んだことを伝えています。



(左) 新しく参加したメンバーがつくるケアセンターの菜園の野菜も育ち、収穫もできるようになっています。



↑ 青少年→年少の子どもへのサポートも始まっています。子どもケアセンターに通う10歳以下の小さい子どもたちが、青少年たちから教えてもらってセンターの敷地に菜園をつくりました。写真右のように育ち始め、すでに1回収穫しました。



↑ (左) 2016年度から研修を受けてきた青少年は年間を通じて家庭菜園で何らかの野菜を栽培できるようになっています。写真のBlessing君は、少し年の離れた姉と小さな弟、妹たちと暮らしていますが、菜園を作り始めてから、「新鮮な野菜が食べられてうれしい」と、Blessing君のお姉さんが喜んでいました。(中) ケアセンターの子どもたちのなかには、両親を亡くしておばあさんと住んでいるこどもたち、あるいはお母さんとだけ暮らす子どもたちも少なからずいます。孫がつくれた葉野菜を乾燥させ、年間を通じて食べられるように準備をしています。(右) 「私の息子は前はすごく荒れていたけれど、ケアセンターに通い始めてから態度が変わり始めました。あとは日曜日に教会に行くようになってくれたら十分。息子が作る菜園(中の写真)は、ほんとうに助かっています！」。

青少年同士のサポート、支え合いにより希望をもち、前を向くようになった子どもたちが、そのサポートを周囲に広げようとしています。

両親を亡くし、Blessing君の近所に祖母と暮らすJames君。一時期、体調を崩して学校に来なかったところ、子どもケアセンターに通う他の子どもたちがセンターのボランティアたちに相談。一緒に家庭訪問したところ、HIVに感染していること、しかし祖母がHIV/エイズに関する知識がなく、また交通費が出せないために、病院に行けず服薬(ARV)できずに体調を崩していることがわかりました。これを見た、他の子どもたちが少しずつお金を集め、ボランティアとJames君が病院に行く交通費を捻出しました。以来、ボランティアのサポートを得ながら毎日薬を飲むことができ、今ではすっかり元気になりました。James君はいま「この経験を、ほかの、感染しているかもしれない仲間たち、そして感染していない仲間たちに伝える予防啓発をしたいんだ」と張り切り、HIV/エイズに関する勉強をし、村内の予防啓発の準備をしているところです。



この5年間の活動により、地域の関係者(ケアボランティア、教員、保護者、教会関係者、村長ら)によるエイズ遺児らのサポート体制が改善、定着→充実し、実際に子どもたちが抱える問題の解決につながっています。子どもたちも大人によるサポートや仲間の支えを受け、自信をもつようになり、未来に向けて行動し始めています。これが世代を超えて伝わるようになってきました。これも継続的にご支援をいただいていたおかげです。「平和カンパ」によるご支援、心より感謝申し上げます。今後はこの成果を周辺地域にも広げていきたい、現在準備を進めています。引き続きご支援いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。